

「互いの個性を認め合い ともに高めあえる学級づくり」 に向けた 学級活動での話合いの工夫

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 教師力育成分野 大久保 潤一

1. 問題の背景と目的

学級経営の充実が叫ばれている昨今、昨年度は、参与観察を通してルール確立やリレーション確立につながる指導や声掛けを検討することと、構成的グループエンカウンターとソーシャルスキルトレーニングを援用した活動を考案して実践を行った。その中から「具体的なよいところを積極的に全体に伝えていくこと」「自分と他者の違いを尊重し、互いの個性を大切にするように声を掛けていくこと」「考えを押し付けず、Iメッセージで自分としてはこう思うという姿勢を見せていくこと」を意識した声掛けや指導をすることで、児童同士がかかわりを深め、人間関係が良好になり、親和的な学級をつくっていくことができることと、構成的グループエンカウンター・ソーシャルスキルトレーニングの実践を繰り返し行うことで自分や相手のことを知り、相手と対話したり人間関係を形成したりするきっかけとすることができることが分かった。

今年度は、学級担任をしながら実践を行うに当たり、昨年度研究をしたルール確立やリレーション確立につながる指導や声掛け、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングの活動を実践していくとともに、学級活動に焦点を当て、話合いを通して集団決定し、決定したことを実践することで、個性を認め合い、みんなで学級を高めていくためには、どのような方法があるのかを調べる研究を進めていくこととした。そこで、私はこれまでの学級活動について振り返ってみた。その中で、「学校や学級における生活上の諸問題から課題を見出すことができていたか」「比べ合い

ながら話合いができていたか」「折り合いをつける、合意形成を図ることができていたか」「決定したことを実践するための時間を確保していたか」「これまでに、振り返り活動を行ってきたか」の5つの課題が浮かび上がってきた。

これらの課題を解決するために、学級活動「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の中の「①問題の発見・確認」「⑤振り返り」に着目し、研究を進めていくこととした。

「(1)学級や学校における生活づくりへの参画」の中の「①問題の発見・確認」「⑤振り返り」について、私の経験を振り返る中で、「①問題の発見・確認」においては、「学校や学級における生活上の諸問題から課題を見出すことができるような指導ができていたか」「これまでに、子どもたちが問題意識をもてるような指導ができていたか」「一部の子どもの問題としてとらえられてしまい、学級全体の問題としてとらえられていなかったのではないか」の3つの課題があり、「⑤振り返り」においては、「これまでに、振り返りの時間を確保していたか」「振り返るための視点を与えていたか」の2つの課題が見出された。

これらの解決のために、学級活動の先行研究を見ると、木内(2011)は、問題や議題発見の工夫について「児童自身が話合いの活動の経験を重ねながら、学級会ではどのような問題について話し合うことが適切かを体得していくことができるようにしたい」「過渡期段階として議題の選定を全員で行うことにより、学級の児童全員が自分たちの問題を自分たちで選んだという意識をもって取り組むことが期待できる」「輪番制による司会グループの経験は、児童

全員が学級会の運営に携わることになり自ずと自分の問題としての意識をもつことができる」と述べている。そこで、議題選定を全員で行うことを繰り返し、話合いの経験や、司会グループの経験を積ませることによって、問題や議題を自分事として話し合うことができるのではないかと考えた。また、東京都教育委員会「平成4年度 教育研究員研究報告書 小学校・特別活動」によると、「相互評価・自己評価の場を重視し、カードなどに記述することや発表することで互いのよさに気付くようになってきた」「評価の観点を明確にすることで、終末の助言の中で一人一人に対し具体的に認め、励ますことができるようになった」「評価の観点を継続的に記録していくことで、個々の変容と学級全体の高まりを把握していくことができた」と述べられている。観点を明確化した相互評価・自己評価などの活動の振り返りを行うことで、互いの個性を認め合うことができるようになっていくのではないかと考えた。

本研究では、テーマの「互いの個性を認め合い、ともに高めあえる学級づくり」に向けた学級活動での話合いの工夫について検討することを目的とした。具体的には、児童が学級活動において共通の問題意識をもち、同じクラスの仲間と話合いや、話合いで決まった活動を行うことで、様々な考えを受け入れながら合意形成を図り、集団の課題を解決する力を高めるためにはどうしていったらよいかについて考察したいと考えた。

なお、この研究では、話合いに至る過程や、話合い後の活動や振り返りを含めて「話合いの工夫」とした。

2. 研究の方法と内容

2.1 期間及び対象児童

期間	2021（令和3）年6月～12月
対象	山梨県内公立小学校 4年生1学級30名（男子16名、 女子14名） 筆者が学級担任

2.2 研究方法と内容

(1) 授業実践

「問題の発見・議題の選定」、「話合いや活動の振り返りの工夫」の具体的指導法の理解を深め、学級の実態を踏まえた上で、「問題の発見・議題の選定」、「話合いや活動の振り返り」の工夫を取り入れた授業を構想し、実践を行った。

授業実践で行った手立ては、次の3つである。1つ目は、議題をみんなで考えることである。これは、議題をみんなで考えることで、現在自分の学級にどんな課題があり、どんなことを解決していかなければならないかについてクラスの全員が触れることになる。そのことによって、議題決定の経緯が分かり、解決方法等の話合いの場で、自分の意見を考えやすくなるのではないかと、また、次回の議題決定の際に、どのような議題を意見として出したらよいかについての理解が図れるのではないかと考えた。議題決定は、①班で議題を出し合い、1つの議題に絞る、②各班から出された議題から、1つの議題に絞る、の流れで行った。また、議題決定の視点として、学級の全員に関係し、決定したことをみんなで取組むことができるか、学級がよりよいものとなる問題か、今すぐ解決しなければならない問題かの3つを子どもたちに与え、議題選定の基準とさせた。

2つ目は、議題決定から活動の振り返りまでを1枚のワークシートを使って行うことである。(図1.2)1枚のワークシートにすることで、議題決定から解決方法の話合い・決定、そして、実践の振り返りまでの流れが一目で分かるようになる。議題決定から解決方法の話合い・決定、さらに、実践後の振り返りまで行くと、どうしても時間が経ってしまうが、1枚にすることで、話合いにつながりがあることが意識でき、議題を自分事として話し合うことで、決まったことを実践することができるのではないかと考えた。

学級会ワークシート

名前 ()

《議題を決めよう》

○自分の考えた議題	○友達が考えた議題
・理由	
○班で決めた議題	○クラスで決まった議題

《話し合いを振り返ろう》

○話し合いで決まったこと
○決めたことを ・よくできた ・できた ・あまりできなかった
・理由

図1 学級会ワークシート (P1)

学級会ノート (月 日 曜日 時間目)

議題	
提案理由	
決まっていること	
話し合いのこと	自分の意見 (理由を入れて書く)
①	
②	

《話し合いを振り返ろう》

① 提案理由やめあてを意識して話し合いができましたか。	よくできた	できた	あまりできなかった
② 賛成・修正・反対の理由をつけて自分の意見を言えましたか。	よくできた	できた	あまりできなかった
③ 友だちの意見のよいところを考え、自分の意見と比べながら聞くことができましたか。	よくできた	できた	あまりできなかった
④ 話し合っただけでよかったと思いましたが、	よく聞けた	聞けた	あまり聞けなかった
⑤ 自分のがんばったところや友だちのよかったところ、決まったことについて書くことを書きましたか。			

図2 学級会ワークシート (P2)

3つ目は、振り返り項目を設定し、振り返りを行うことである。自分だけではなくクラスの人達のこと考えながら振り返ることができるように振り返り項目を設定した。話し合いの振り返り項目は、①提案理由やめあてを意識して話し合いができましたか。②賛成・修正・反対の理由をつけて自分の意見を言えましたか。③友だちの意見のよいところを考え、自分の意見と比べながら聞くことができましたか。④話し合っただけでよかったと思いましたが。の4つで、「よくできた」「できた」「あまりできなかった」の3件法で振り返りを行った。また、「自分のがんばったところや友だちのよかったところ、決まったことについて書くことを書きましたか。」という自由記述の欄も設けた。

また、決めたことの実践後にも、自分が決めたことにどのように向き合っていたのかや、クラスの人達とどのように関わることができていたのかを振り返るようにしたいと考え、振り返りを行うようにした。決めたことの実践後の振り返り項目は、決めたことを「よくできた」「できた」「あまりできなかった」の3件法で振り返り、自由記述の欄も設定した。

成果を検証する方法として、質問紙調査を行った。質問紙調査は、実践前の11月18日(木)と、実践後の12月21日(火)に行った。質問項目は以下の通りである。

2.3 成果を検証する方法

成果を検証する方法として、質問紙調査を行った。質問紙調査は、実践前の11月18日(木)と、実践後の12月21日(火)に行った。

質問項目は以下の通りである。

- A 問題意識に対する項目
- B 自己有用感に対する項目
- C 一連の活動への意識に対する項目
 - (1) 自分に関する事項

A	あなたは、学級をよくしようと考えていますか。
	あなたは、学級をよくするための意見をもち、話し合うために提案していますか。
	あなたは、学級会で決めたことに取組んでみて、さらに学級をよくしようと考えていますか。
B	あなたは、友達の意見や思いを聞いていますか。
	あなたは、友達のよさを見つけようとしていますか。
	あなたは、学級の役に立っていると感じたことはありますか。
C	あなたは、学級会での話し合いの場面では、自分の思いを伝えていますか。
	あなたは、学級会で友達の思いをわかろうとしていますか。
	あなたは、学級会で振り返ったことを次の活動やこれからの生活に役立てようと思えますか。

- (2) クラスに関する事項

A	このクラスの人達は、学級をよくしようと考えていますか。
	このクラスの人達は、学級をよくするための意見を持ち、話し合うために提案していますか。
	このクラスの人達は、学級会で決めたことに取り組んでみて、さらに学級をよくしようと考えていますか。
B	このクラスの人達は、あなたの意見や思いを聞いてくれますか。
	このクラスの人達は、友達のよさを見つけようとしていますか。
C	このクラスの人達は、学級会での話合いの場面で自分の思いを伝えようとしていますか。
	このクラスの人達は、学級会で他の友達の思いをわかろうとしていますか。
	このクラスの人達は、学級会で振り返ったことを次の活動やこれからの生活に役立てようとしていますか。

これらの項目を、「よく考えている・よくしている」「考えている・している」「あまり考えていない・あまりしていない」「全く考えていない・全くしていない」の4件法で質問した。

3.実践における結果と考察

3.1 実践授業の内容

(1) 題材名

2学期残り1か月、クラスをさらによりよくしよう（学級活動(1)ア 学級や学校における生活上の諸問題の解決）

(2) 目標

「時間を守って行動するには」を議題に、取組の内容や方法を考えることを通して、折り合いをつけて決定しようと、友達の意見を聞いたり、自分の意見を発表したりすることができる。

(3) 事前の指導（議題決め）

11月24日（木）に行った。

各班から、「友達が話していることを聞くには（1班）」「給食と授業中にしゃべらないためには（2班）」「けじめをつけるには（3班）」「給食のとき、しゃべらずすばやく行動するには（4班）」「時間を守って行動するには（5班）」「給

食のときに静かにするには（6班）」といった議題が出された。

全体決定では、複数の班で意見として出た「給食のときにしゃべらない」という議題にくつもの賛成意見が出されていた。その中で、児童Aが「給食のときにしゃべらないためには、僕は静かにすることしか思いつかない」という意見を出した。その意見に納得した児童が複数名おり、そこから、「給食のときにしゃべらない」以外のものに賛成意見を出す児童が増えていった。

最終的には、「給食のときにしゃべらないためには」と「時間を守って行動するには」の2つに絞られ、多数決の結果、「時間を守って行動するには」について話し合うこととなった。

(4) 本時の展開および授業の様子

授業展開は、以下の通りである。

- ①はじめの言葉 ②計画委員の紹介
- ③議題や提案理由の確認
- ④話合いのめあての確認
- ⑤決まっていることの確認
- ⑥話合い ・どのように取り組むか。
- ⑦決まったことの確認 ⑧振り返り
- ⑨先生のお話 ⑩終わりの言葉

⑥の話合いでは、「声をかける」「話を聞く」「時間を守ることを心がける」「休み時間が終わったら早く戻ってくる」の4つの意見を中心に話し合われた。しかし、どの意見にもクラス全員が納得できる理由がなく、自分が賛同できる意見について賛成意見を言っている様子であった。そこで、みんなが納得できるような意見を考えるために、グループで意見を話し合う時間を取った。しかし、グループで話し合う目的が浸透せず、考えをまとめるのか、自分の思っていることを出し合うのかがわかっていないグループがあった。このことから、グループでの話合いの目的を伝える必要があると感じた。

最終的に「時間を守ることを心がける」「時間を見て声をかける」の2つのことが決まった。しかし、授業を参観された先生方より、「～を心がける」、「～に声をかける」など、決定したこ

とが曖昧になっており、具体的にどう取り組むかを決めさせるための教師の発問が必要だったのではないかと意見が出された。そこで、これらのことを子ども達にも話し、具体的にどのように取り組むかについて、後日話し合った結果、「決まった時間におくれている人に声をかける」「時計を見て、すばやく行動する」という2つのことを実践していくこととなった。

(5) 事後の指導（決まったことの実践）

話し合いで決まった「決まった時間におくれている人に声をかける」「時計を見て、すばやく行動する」について、12月6日（月）～12月10日（金）の1週間取り組んだ。

取組の様子は、時計を見て「移動教室だから並ばないといけない」「あと〇分で下校の集合場所に行かなければならない」といった発言があり、実践をする前より時間を意識して行動できている様子が見られた。

3.2 実践の結果と考察

話し合い後の振り返りは以下の通りである。

(表1～4)

表1「提案理由やめあてを意識して話し合いができましたか」の回答結果

	人数	割合 (%)
よくできた	22	74
できた	3	10
あまりできなかった	4	13
無回答	1	3

表1より、84%の児童が提案理由やめあてを意識して話し合いをしていたことがうかがえる。しかし、「みんなが納得できる話し合いにしよう」というめあてがある中で、意見のまとまりがなかったところを見ると、提案理由やめあてを意識させるという教師の指導が足りなかった印象がある。話し合いが膠着したり脱線したりしてしまった場合の教師の適切な指導について考えていく必要があると感じた。

表2「賛成・修正・反対の理由をつけて自分の意見を言えましたか」の回答結果

	人数	割合 (%)
よくできた	13	43

できた	8	27
あまりできなかった	7	23
無回答	2	7

表2より、70%の児童が自分の意見を言えたということがうかがえる。しかし、23% (7名) の児童が意見を言えていないと回答していた。自由記述を見ると、「みんな、たくさんの意見を発表していた」「友達がたくさん意見を言っていてすごいと思った」「自分もたくさん言えるだけ言いたいと思った」といったものがあり、友達の意見を聞いたり、自分も言いたい気持ちがあったりすることがうかがえた。このことから、話し合いの場面だけではなく、授業などで意見を言いやすい雰囲気をつくること、教科と連携しながら、自分の考えをもち、それをみんなに伝える場面をつくることなど、自分の考えを伝える場面を普段から用意していく必要があると感じた。

表3「友だちの意見のよいところを考え、自分の意見と比べながら聞くことができましたか」の回答結果

	人数	割合 (%)
よくできた	20	67
できた	7	23
あまりできなかった	2	7
無回答	1	3

表3より、90%の児童が自分の意見と比べながら聞くことができていたことがうかがえる。あまりできなかったと回答した児童の記述を見ても、「よくお友達の意見を聞くことができた」「反対意見や、賛成意見を言っている人がいたことがいいところだと思った」というものがあり、話は聞くことができていたことがうかがえる。また、この問いや自由記述は友達のことについて考える項目であるので、自分だけではなく、友達のことを考えながら話し合いができたのではないかと考える。しかし、この2名は、「賛成・修正・反対の理由をつけて自分の意見を言えましたか。」の質問にも「あまりできなかった」と回答しており、話は聞いていたが、自分の考えをもてずに自分の意見と比べることができなかったのではないかと考えられる。意

見をもち、友達の意見と比べさせる手立てを考えていく必要もあるのではないかと感じた。

表4「話し合っよかったと思いませんか」の回答結果

	人数	割合 (%)
よく思った	24	80
思った	4	13
あまり思わなかった	0	0
無回答	2	7

表4より、回答したすべての児童が話し合っよかったと思っていることが分かった。このことから、みんなで話し合っ決定し、それをみんなで実行していけば、クラスをよくすることができると思えたのではないかと考える。児童の記述の中に、「決めたことをしっかり守れるようにしたい」「決めたことを守ろうと思った」といったものがあり、話し合っ決定だけでなく、決めたことを守っていきたいとする振り返りも見られた。

決めたことの実践後の振り返りについては以下の通りである。(表5)

表5「決めたことの実践後の振り返り」の回答結果

	人数	割合 (%)
よくできた	12	40
できた	15	50
あまりできなかった	1	3
無回答	2	7

この結果を見ると、90%の児童が決めたことを意識しながら生活し、実践していこうとする意欲があることが分かった。しかし、一部否定的な回答をしている児童もおり、全員で決めて全員で守るところまでできていないことが分かった。「あまりできなかった」と回答した児童は、「時間を見ていたが、すばやく行動できなかったから」との記述があり、意識はしているが、行動にうつせなかった様子が見える。

また、自由記述を見ると、「帰りの会で遅れている人に声をかけ、時計を見て行動をとっていた(「よくできた」と回答)」や「声をかけることはあまりやっていたが、時間を見てすばやく行動するを守ったから(「できた」と回答)」と

記述し、自分のことだけではなく、友達に対してどうしたかについて記述ができていた児童がいた。一方で、「毎日時計を見てすばやく行動し、時間にゆとりをもって行動していたから(「できた」と回答)」や「時計を見て、すばやく行動できた(「よくできた」と回答)」といった、自分の行動のみの振り返りしかしていなかった児童がいた。これは、記述欄に「理由」としか書いていないことが原因ではないかと考えた。自分だけでなく、友達を意識するためには、友達について質問する項目が必要なのではないかと思った。

3.3 質問紙による考察

授業実践前と授業実践後に同じ内容の質問紙調査を実施した。その中から、筆者が研究テーマに関わり注目した、自分に関する事項の「あなたは、学級をよくするための意見を持ち、話し合うために提案していますか」「あなたは、学級会での話し合いの場面では、自分の思いを伝えていきますか」「あなたは、学級の役に立っていると感じたことはありますか」の項目について、表6～7にその結果を示す。

表6「あなたは、学級をよくするための意見を持ち、話し合うために提案していますか」の回答結果

実施時期	11月		12月	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
よくしている	2	7	9	30
している	14	48	14	47
あまりしていない	11	38	5	16
全くしていない	2	7	2	7

この質問では、授業実践前の肯定回答が55%だったものが、授業実践後は77%となっている。今回の実践をしたことで、みんなでクラスの課題から話し合いの議題を決め、話し合いのときには学級をよくする意見を考えようとする意欲が出てきたことで、数値が向上したのではないかと考える。

一方で、「全くしていない」と回答した児童が、実践前と実践後で同数という結果だった。実践後に「全くしていない」と回答した児童に理由を聞いてみたところ、2人共「意見が思い

つかなかった」との回答だった。このことから、現在のクラスにはこんな良いところ・よくないところがあり、クラスをよくするためにどんなことができるかについて自分の考えを出すための手立てを考えていく必要があると思った。

表7「あなたは、学級会での話合いの場面では、自分の思いを伝えていますか」の回答結果

実施時期	11月		12月	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
よくしている	3	10	10	33
している	13	45	14	47
あまりしていない	11	38	4	13
全くしていない	2	7	2	7

この質問では、授業実践前の肯定回答が55%だったものが、授業実践後は80%となっている。今回の実践をしたことで、自分の意見を伝えることが、クラスをよくしていこうとする意欲の向上につながったのではないかと考えた。これからも話合いの活動をする際、発言力が高い児童の意見のみが通る学級ではなく、みんなの意見を尊重し、その中からよりよい意見にまとめていける話合いができるようにしていく必要性を感じた。

一方で、「全くしていない」と回答した児童が、実践前と実践後で同数だった。実践後に「全くしていない」と回答した児童に理由を聞いてみたところ、「あまり手を挙げて意見を言っていなかった」「意見が思いつかなかった」との回答だった。このことから、学級の中で意見を言える雰囲気づくりや、他教科と関連させながら意見を考え発表する場面づくりを行っていく必要があると感じた。

表8「あなたは、学級の役に立っていると感じたことはありますか」の回答結果

実施時期	11月		12月	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
よくしている	4	14	8	27
している	15	52	18	60
あまりしていない	8	28	1	3
全くしていない	2	7	3	10

この質問では、授業実践前の肯定回答が66%

だったものが、授業実践後は87%となっている。今回の実践の、自分たちの課題を自分たちで見出し、それを解決するための話合いを行い、決めたことを自分たちで取組んでいくことを行ったことで、学級への所属感や仲間意識が高まったのではないかと考えられる。また、話合いの振り返りで、自分のことだけではなく友達のこと意識したものとしたので、みんなで話し合っているという意識があったのではないかと考えられる。このことを考えると、実践後の振り返りに、自分だけではなく友達のこと意識した振り返り項目となっていなかったことが悔やまれる。

一方で、「全くしていない」と回答した児童が、実践前より実践後の方が増えてしまった。実践後に「全くしていない」と回答した児童に理由を聞いてみたところ、「意見を言っていないから」「意見を出しても使ってもらえないから」との回答だった。このことから、「話合いで意見を言うことだけではなく、みんなで決めたことを守ることも学級の役に立つことだよ」といった学級の役に立つ場面を理解させていくことや、係活動など活躍の場を設定するなどの取組が必要と感じた。係活動で活躍する、決めたことを守るなどの取組が、クラスの課題やクラスをよりよくするための意見を考えるきっかけとなると感じた。

4.まとめと今後の課題

成果としては、以下の2つが挙げられる。1つ目は、みんなで考えたクラスの課題について、解決方法を話合い、実践していくことによって、クラスをよくしていこうとする意欲が高まってくることである。これは、クラスをよくするために自分たちの課題を自分たちで見出し、それを解決するための話合いを行い、そこで決めたことをみんなで守ろうとすることで、学級がよくなることを実感できたからではないだろうか。併せて、学級への所属感や仲間意識も高まっていったと考えられる。

2つ目は、議題をみんなで考えることで、何について話し合っているのかが明確になり、話

合いに意欲的に参加しようとする姿が見られることが分かった。これは、話合いの際に、普段の授業ではあまり意見を言わない児童が意見を言っていた姿があり、今、何について話し合っているのかを理解できていたからではないだろうか。しかし、この点については、話合いにおいて全員が発言していないという課題もあるので、改善できるようにしていきたい。

課題としては、以下の2つが挙げられる。1つ目は、全体で議題を決める中で、提案理由について触れることが少なく、子ども達の中で「なぜこの課題について話し合っているのか」についての意識が低くなっていたのではないかとということである。議題選定の場面で、「どの議題について話合いたいのか」については意識して話し合わせていたが、「なぜ話合いたいのか」についてはあまり意識がなく、意見もあまり出されていなかった。「なぜ話合いたいのか」が意識できてくると、解決方法等の話合いのときに、みんなを納得させられる意見を考えることができるのではないかと考える。

2つ目は、ワークシートの配置が悪く、また、書く場所が多く、どこに何を書いてよいか分からなくなっていた児童がいたことである。議題の決定が1ページ目の上半分、解決方法等の話合いについてとその振り返りが2ページ目、実践の振り返りが1ページ目の下半分という形になっており、話合いの振り返りと実践の振り返りをどこに書いたらよいか分からない児童が出てしまった。また、実践の振り返りには、友達について振り返る項目がなかった。ワークシートを見直し、児童が分かりやすく書きやすいものとしていきたい。

これらの成果や課題に加え、さらに以下の点を踏まえながら研究を続けていく必要がある。1点目は、自分たちの課題を自分たちで見つける力を高めるために、児童の実態に合わせた課題発見の手立てを考えていく必要があることである。今回の実践では、議題をみんなで話し合って決めたが、児童の実態に合わせて、意見箱等から議題を集めて決定していく方法や、係活動などから上がってきた課題について話し

合っていくなどの方法も考えていきたい。

2点目は、「意見が思いつかない」など、話合いに積極的に参加できていない児童について、参加できるようにするための手立てを考えていく必要があることである。こちらは、他教科と関連させながら意見を考え発表する場面を取り入れ、みんなが意見を言える学級づくりを行っていききたいと思う。

これらのことに今後も取り組んでいき、私がテーマとしている「互いの個性を認め合い、ともに高めあえる学級づくり」を、さらに実現できるようにしていきたい。

参考文献

- 木内悦雄 (2011) 「『議題集め』お悩み相談室」『道徳と特別活動』文溪堂
 国立教育政策研究所教育課程研究センター (2019) 「みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)」文溪堂
 文部科学省 (2018) 「学習指導要領(平成29年告示)解説 特別活動編」東洋館出版社
 佐賀県教育センター (2016) 「特別活動と道徳科の効果的な連携を図るカリキュラム・マネジメントー学校行事前後の学習過程の工夫を通してー3(4)学級会で使える参考資料」
https://view.officeapps.live.com/op/view.aspx?src=http%3A%2F%2Fwww.saga-ed.jp%2Fkenkyu%2Fkenkyu_chousa%2Fh28%2F11_syo_tokubetukatudou%2Fdocuments%2Ffrink5notekou.doc&wdOrigin=BROWSELINK (2021.10.20 閲覧)
 東京都教育委員会 (1992) 「平成4年度 教育研究員研究報告書 特別活動・小学校」
<https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/09seika/reports/files/kenkyuin/sho/toku/h04sho-toku.pdf> (2021.6.20 閲覧)
 東京都教育委員会 (2019) 「平成30年度 教育研究員研究報告書 特別活動・小学校」
<https://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.lg.jp/09seika/reports/files/kenkyuin/sho/toku/h30sho-toku.pdf> (2021.6.20 閲覧)

謝辞

本研究を行うにあたり、温かくご指導くださった連携協力校である勤務校の校長先生をはじめ先生方、教職大学院の先生方に厚く御礼申し上げます。